

1 健全な神学に立つ

—私自身の足跡から—

—宮基督教研究所
安黒 務

2 求道生活の足跡： A. 羊のようにさまよい

1. 弟の死
 1. 聖書との出会い—ギデオン聖書
 2. 三浦綾子著『氷点』
2. 大学—目標の喪失
 1. 生きがいを求めて—絵画部「弦月会」
 2. ヨーロッパ旅行—迷子になる—宇宙の孤児
 3. ニーチェ著『ツァラトゥストラかく語りき』—徹底的無神論者に—
 4. サルトル—私たちの実存直視するとき「発狂か自殺しか道はない。」

3 求道生活の足跡： B. 教会との接点

1. 電柱に一枚のポスター：西宮福音教会・KBIの映画集会「ここに愛がある」
 1. 義理で礼拝出席はじめる
 2. きよらかな賛美・聖霊の臨在・感謝・喜び：クリスチャン生活にあこがれる
2. 一本の電話：KGKキャンプへ—クリスチャンの涙を伴う、心の内にある罪の告白—
求道生活の出発点

4 求道生活の足跡： C. 聖書に親しむ

1. 太宰治—マタイ伝三年半かけて読む
2. つまらない授業、酒、マージャン、等々—空しい一日、しかし聖書を一節読んで寝る
3. 黙示録3：20「戸の外に立ってたたく。」—イエスの言葉のひとつひとつが生きた語りかけとして心に響く不思議な経験。
4. マタイ13：18—23「道端、岩地、いばらの地、良い地」—心の頑なさを照らされる
5. はじめての祈り—「もし神さまが本当におられるなら…」

5 求道生活の足跡： D. 文学に親しむ

1. 太宰治『人間失格』
2. 夏目漱石『こころ』—友人と下宿、その娘さんと恋愛、友人を裏切ること、友人は自殺、深い罪意識、道端でむち打たれたい、最初から恐ろしいものが心の深みに
 1. 罪の問題が、明確に示され—行いとしての罪ではなく、心にある罪の性質の問題—幸せな人生を破壊するもの
 2. 「心の罪の性質」の問題の解決なしに、幸福な人生ありえず

6 求道生活の足跡： E. 決心

1. 四回ある洗礼準備会の最後のときに顔を出す
 1. 「千里の道を行き、万巻の書を読んで後、真理をさとる」—決心はまだ先で良い
 2. ヘブル4：7「今日、もし御声を聞かならば、あなたがたは心をかたくなにしてはならない。」—ハレー彗星70年に一度、地球に再接近—私にとって最後のチャンスとの、御霊の迫りを感じた
2. 高橋師「洗礼を受けたい人ありませんか？」—一番うしろの席から手をあげた。
 1. 「安黒さん、それでは、自分の罪を告白してください。罪の告白をすると恵まれますよ。」

2. 前に出て行ったが、小さな罪があふれるように示されて、涙があふれ、泣いて泣いて言葉にならなかった。
3. 下宿に帰り、思い出せる限りの罪を紙に書き綴って、神さまの前に罪を悔い改め、ゴミとともに燃やしてしまった。
 1. マルコ1:15「悔い改めて、福音をしんぜよ。」の言葉が心に響いていた。

7 信仰生活の足跡:

ただ、イエス・キリストのみ

1. クリスマスに洗礼を受け、そのままクラブのメンバーと信州の白馬にスキーに
 1. クリスマスだった。急にお酒を飲まなくなったので、「どうしたんや？」みんなが心配して。
 2. 「イエス・キリストを信じて、洗礼をうけたんや！」大騒ぎに！「え～！なんでや！」
2. 「それで、カトリックなん？プロテスタントなん？」
 1. 「そんなん、わからへんけど、ただイエス・キリストを信じている。それだけや。」
 2. ヨハネ5:39「あなたがは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書がわたしについて証言しています。」
 3. もし、神さまがおられると、それは「イエス・キリストのようなお方である。」と不思議に心底から信じることができた。

8 信仰生活の足跡: みことばを宿し、

感謝にあふれて心から歌う

- コロサイ3:16「詩と賛美と霊の歌により、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」— 家業手伝い、軽四トラック、集金、コーラス賛美に溢れて
- 詩篇119:130「みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまへのなす者に悟りを与えます。」— 毎朝、毎夕、必ず聖書を開いて— J. C. D. アンダーソン著『静思の時』の遵守

9 信仰生活の足跡:

聖書通読のチャレンジ

1. 福野師—西宮の礼拝「クリスチャンになって、三年たつて、聖書を一度も通読していない人は、恥じるべきです！」
2. 「聖書を通読しよう！」
 1. ドストエフスキー「牢獄の中で、聖書の一文字一句を墨で塗りつぶしながら、御言葉を食べるようにして読んで行った。」— 私もマジックで
 2. 韓国の牧師「山に千日こもり、聖書を千回通読して、預言者のように山から下りてきた」— 私も、二週間で
 3. ハーレイ著『聖書ハンドブック』を用いて、三ヶ月かけて丁寧に、聖書の背景と簡潔な解説を学びつつ— 聖書に書いてあることを全体的に理解することができた。イエス・キリストを信じ、またイエス・キリストについて書いてある聖書を全体として信じるようになった。

10 信仰生活の足跡: ウォッチマン・ニー著『キリスト者の標準』a

1. 聖書通読が生きる目標、みことばを宿し、みことばの中に泳ぐ。
2. 所属団体—スウェーデン・オレプロ・ミッションから自立して、「日本福音教会(JEC)」へ
 1. JECの福音理解、JECのアイデンティティは何か? —特に、第一世代の教職者—関西聖書神学校(塩屋)で学び—聖化の「危機的理解」
 2. バプテストの流れとしてのオレプロ・ミッション—聖化の「漸進的理解」
 3. その折衷的理解として『キリスト者の標準』—JECまた、KBIの福音理解の教科書
3. 異端の群れ—ウィットネス・リー「ローカル・チャーチ運動」の問題が浮上
 1. 「日本福音書房」からの出版物
 2. ウォッチマン・ニーのブーム去る
 3. 「ブームに乗り、ブームとともに去る」—このあり方に疑問をもつ—神学的取り組みの伏線となる
4. ウォッチマン・ニーの生い立ち、救われた背景、神学教育、著作集等々の包括的な研究・分析・評価の必要性—「玉石混交」—価値あるものを継承し価値のないものを捨て去る神学的識別力の大切さを思い知る

11 信仰生活の足跡: ウォッチマン・ニー著『キリスト者の標準』b

1. 内面の「罪の性質」の問題に再び焦点
2. 二重の身代わり
 1. 義認: 2000年前—カルバリの丘で
 1. 出エジプトの過ぎ越しの子羊の血
 2. ローマ3章、4章
 2. 聖化: 今日、内性の御霊を通して
 1. ローマ6、7、8章の説明
 2. 「罪の性質=肉の性質」の扱い方を学ぶ
 3. 根絶ではなく、解放として
 4. 7:24「私は、本当にみじめな人間です。だががこの死のからだから救いだしてくれるのでしょう。」「私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ、神に感謝します。」
 5. 苦悩の叫びと感謝の賛美—クリスチャンの全生涯を通じて
 6. 8:12「肉に従って生きる責任を、肉に対して負わず」—徹底して無責任になる。無関係を押し通す。腐れ縁に振り回されず。キリストともなる死により、赤の他人に。

12 信仰生活の足跡: R. H. カルペッパ著『カリスマ運動を考える』

1. 「御言葉と十字架」で十分祝福された生活
2. 大阪梅田の扇町キリスト教会で「聖霊カリスマ・セミナー」—アメリカ・カナダの聖霊カリスマ・チーム: プリチャード師—三日間、非常にバランスのとれた集会、聖霊とその働き、賜物について分かりやすいセミナー
 1. 一日だけの予定—使徒行伝2章の状況が目の前に—聖霊の超自然的働きが今日も
 2. ローマ4:20-21「彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対にますます信仰が強くなって、神の栄光を備し、神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じまし

- た。」
1. かならず、「聖霊の賜物が与えられる」との不思議な確信が与えられた。「今日は、風呂敷を持って行きます。」と言って出かけた。
 2. 午前の集會が終わり、「祈ってほしい人は二階へ。」十人ほどの人が二階に、一番端っこの椅子にすわって、静かに祈り始めると「聖霊が上からくだり、異言がナイアガラのように、溢れてきた。とどめることもできないくらい、強く激しく。」そのときに、指導しておられる先生が「まだ、受けていない人もありますので、静かにコントロールしてください。」と助言して下さった。
 1. そのときに1コリント14:32「預言者たちの聲は預言者に服従するものなのです。」—異言の賜物は、ボリューム・コントロールできるものであることを知った。

13 信仰生活の足跡： 神学的な取り組みの始まり

1. KGKの交わりの中で
 1. 「聖霊のバプテスマ」と「異言の賜物」の議論
 1. 兄弟姉妹としての交わりにひび、心の痛み
 1. ローマ9:1-2「私は、キリストにあって真実を言います。偽りを言いません。次のことは、わたしの良心も、聖霊によってあかしています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。」
 1. ローマ10:「兄弟たち、わたしが心の望みとし、また彼らのために神に願っていることは…」
 2. R. H. カルベツパー著『カリスマ運動を考える』
 1. ペンテコスタ・カリスマ運動の全貌
 1. 議論となっている事柄
 1. 落ち遅くべき議論
 1. 重要参考文献一覧表—プロテスタントの中のペンテコステ派、カリスマ派、カトリックの中のカリスマ運動、理解のある中間派、否定的な反対派の中のすぐれた神学者・教師の著作一覧
 3. 岬福音教会設立25周年記念誌
 1. 『聖霊のバプテスマの神学と経験』についての一考察
 1. 必要にせられるかたちで、次々と資料づくり.No.1-20
 1. 福音主義神学全体の中で、証していくことを目指して「共立基督教研究所」の宇田師のもとへ内地留学
 1. 「J. D. G. ダンの『イエスと御霊』についての一考察」—異言と「アバ父よ。」の意識の関係の研究

14 健全な神学に立つことを求めて：宇田進著『福音主義キリスト教と福音派』

1. 宇田進著『福音主義キリスト教と福音派』—自らの神学的アイデンティティについて明確な理解を得る
 1. 師との出会い—「この先生のもとで、徹底的に学んでみたい。」
 2. 「福音主義神学研究」の結実
 1. 安黒務編著『JEC(またKBI)の源流と歴史的遺産』

15 健全な神学に立つことを求めて：M.J.エリクソン著『キリスト教神学』

1. 名著との出会い—JECのルーツでもあるスウェーデン・バプテスト系諸教会—を共通のルーツとする
 1. M.J.エリクソン著「キリスト教神学」—世界の福音派の「組織神学」教科書のスタンダード=JEC・KBIの輪郭表現にぴったり
2. 神学生のために翻訳開始—いのちのこば社の知るところとなり—翻訳出版へ
 1. いまや、日本の福音派神学校の「組織神学」講義のスタンダードに
 2. 個性と多様性を内包する福音派全体の神学—深い部分での「共通項」、づくりに貢献、共通して取り組むべき課題の提言等々—(今回の春期研究会議もまたその結実)

16 健全な神学に立つことを求めて：—神学的座標軸を形成する—

1. 健全な「聖書神学」に根ざして
 1. G. E. ラッド著作集(フラ—神学校:新約聖書神学教授)—G. ヴォス、J. マーレー等の聖書解釈をベースにしている
2. 健全な「歴史神学」軸と
 1. 宇田進著『福音主義キリスト教と福音派』、『総説現代福音主義神学』(東京基督教大学:歴史神学・組織神学教授)—C.ヴァンティル、J.マーレーに師事。
3. 健全な「組織神学」軸とを形成していく
 1. 今日におけるさまざまな運動等々を「健全な神学的座標軸」の中に位置づけ
 2. 適切に分析・評価し
 3. 取捨選択しつつ、伝道・教会形成等に生かしていく

17 わずかな物に忠実に：

—タラントを地の中に埋めず！

1. タラントを地の中に埋めず
 1. マタイ25:14-30「天の御国は自分の財産をあずけ、旅に出て行く人のようです。…」
 2. 25:21「よくやった。忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物をまかせよう。」
 3. 25:24「ところが、タラントを預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま、あなたは誰かいない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私はこわくなり、出て行って、あなたのタラントを地の中に隠しておきました。さあ、どうぞ、これがあなたのものです。』」
 4. 「虎穴に入らずんば、虎子を得ず！」—高価な犠牲を払うことなしに、高価なものを手に入れることはない！
2. 空しい生活を送り、酔っ払って聖書を一節ずつ読んでいた者が、今あるような「神学教育」にあづかれるとは、「夢にだに思わず」
 1. 1コリント2:9まさしく聖書に書いてある通りです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」
 2. エペソ3:20「私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて、豊かに施すことのできる方に、」

18 健全な神学に立つ： 関連サイト

- 「一宮基督教研究所」ホームページ
 - <http://www.aguro.jp/>
- 「一宮基督教研究所」イントラネット

- <http://iciici.intranets.co.jp/>
- メール・アドレス
 - aguro@mth.biglobe.ne.jp
- 住所
 - 〒671-4135
 - 兵庫県宍粟市一宮町安黒332
 - 一宮基督教研究所:安黒 務